

## フランス留学の ちょっととしたレジュメ

32期生 南野 森

みなさんお元気でしょうか。僕はいまパリのアパートでこの原稿を書いています。東大法学部の大学院を休学して、一九九七年九月より、パリ第十大学に留学しているためです。東京では憲法學を専攻していましたが、パリでは、法哲学専攻のコースに登録しています。

日本の憲法学は、研究の対象である憲法が、明治の旧憲法も現在の憲法もそうなのですが、諸外国とりわけ英米仏独の憲法思想を取り入れたうえで成立したものであるため、明治時代から、常に歐米の憲法学の動向に重大な関心を払つてきました。いまも多くの憲法学者は、日本語の他になにか少なくとも一つの外国语を使って、外国憲法思想の研究にも精を出している、というのが現状です。僕はといえば、修道院のみなさんがフランス語を話していたから親近感があった、というのが理由かどうかはわかりませんが、大学に入学した際に、第二外国语にとくに迷うことなくフランス語を選び、その後大学院に進学して憲法學を専攻するようになつてからも、主としてフランス憲法學を関心の対象においてきました。

ところで、明らかに日本よりも

進んでいる最先端の研究に接する必要がある理系の人や、あるいは日本では入手不可能な貴重な文献などを違つて、法学研究者の場合、古い時代の研究をするというのも限ります。実際に外国に行つて研究をしなければならない必要性は、実は余りないのかもしれません。東大法学部の図書室には、フランス語の文献が比較的揃つていることを考えれば、僕の場合にはなおさらそろそろかもしません。

また、より専門的な研究対象、あるいは自分の研究スタイルといつたものが確立してから留学する方が効果的だ、ということも言えるのかも知れません。

それはそうなのですが、僕の場合、修士課程を終えて博士課程に進学したところから、漠然と海外に留学してみたいと考え始めるようになりました。そして実際、博士課程の二年目の前期を終えたあと東大を休学し、ここパリにやってきて、すでに当初の予定であつた二年が終わり、現在三年目の半ばを過ぎたところです。今年の一〇月には東大に復学し、その後できるだけ早く博士論文を提出する、ということになりますが、これまでの留学生活を振り返つてみて、あまり意義がないかも知れないと、いつ行動に移した院生段階でいふと、なあさう、遊ばうといふインセンティブが大きくなり、堂々と、毎日バカンス気分で過ごすことができるからです。この語学留学では、パリとリヨンに一ヶ月ずつ滞在したのですが、授業もそっちのけで(?) 街を散策したり、あるいはフランス各地やスペインにまで旅行をしたり、と楽しむところが一杯です。

ともどもが自信過剰なたちの場をお借りして、おおざつぱにお話してみたいと考えています。パリに来るのは、この留学が6回目でした。初めてヨーロッパにやつてきたのは、今から一〇年前、大学に入って初めての春休みを利用して、32期の堺本君と敢行(?) したヨーロッパ一周大旅行でした。その後何度も来る機会があつたわけですが、長期のフランス滞在となると、留学の一年前、博士課程の一年生の夏休みを利用しての語学留学が最初になります。アメリカのサマースクールもそうでしたが、数カ月の語学留学ほど楽しいものはありません。要は、語学の上達が唯一の目標なわけですから、外人と遊びに行つても、映画を見に行つても、買い物にかけても、とにかくその国の言葉に接してさえいれば、目的に違わず、自分を納得させることができます。おかげに、机に向かつての文法の勉強は日本でもできるよ、などという悪魔のささやきが聞こえてくれば、なおさら、遊ばうといふインセンティブが大きくなり、堂々と、毎日バカンス気分で過ごすことができるからです。この語学留学では、パリとリヨンに一ヶ月ずつ滞在したのですが、授業もそっちのけで(?) 街を散策したり、あるいはフランス各地やスペインにまで旅行をしたり、と楽しむところが一杯です。

### 電設資材・住設機器総合卸 湖陸電機株式会社

代表取締役 小宮山 俊朗 (9期生)

本社 〒600-8029  
京都市下京区寺町通五条上ル771  
TEL. 075-341-9271(代)

北営業所 〒603-8357  
京都市北区平野宮西町68  
TEL. 075-463-2211(代)

### Message

税金について  
お気軽にご相談  
下さい。

### 井上税理士事務所

井上 建太郎 (9期生)

〒616-0022 京都市西京区嵐山朝月町49-6  
TEL. 075-872-0499

かも知れませんが、このフランスでの二ヵ月の生活は、今から思い返すとよくもまああの程度の語学力で思い上がるに至ります。が、それでもなんとかフランスでつづいていけるだろうという自信を僕に与えてくれました。一九九六年の九月、東京に戻ったわけですが、ちょうどそのころ、武藏野市にあるNTTの研究所に研修で来ていたフランス人グループと知り合い、それが大きく僕の留学への準備を加速することになります。彼らはパリの国立電気通信高等専門学校(ENST)というところから六ヵ月の予定で日本に派遣されており、その中の一人、エティエンヌ君と仲良くなつていったのです。彼はグランド・ゼコールの一つ、エコール・ポリテクニーク(理工科学校)という、フランスでは猫も頭を下げるほどの(?)超エリート校を卒業したあとENSTに入學し、NTTでは音声認識技術の研究をしていました。ポリテクニーク時代に日本語を始め、以来漢字の魅力に取り憑かれたりと、所沢のNTT寮でも、毎晩漢字を書いて時間を過ごしていました。寺井先生や、すでに退職された木村先生、久保先生の授業のおかげで、僕はおそらく平均日本人よりは漢字や日本語に詳しかったような気がするのですが、それで、エティエンヌ君の飽っこ

となき漢字探求にもそれなりに付き合つてあげることができ、だんだんと意気投合していくといったうわけです。

彼らがその後フランスに戻つてからも、エティエンヌ君とはメールでのやりとりを続け、いろいろなアドバイスを貰つたりして、僕の留学計画がだんだん現実化していくことになりました。東大の先生方に相談したところ、フランスに行きたいなら、ミシェル・トロペール教授のところが良いだろう、と口を揃えて言われました。トロペール教授は、日本や欧米の憲法学者や法哲学者にもよく知られています。学部時代のゼミ指導教授でもあった樋口陽一教授に早速紹介の労をとつてもらつたところ、いきなり電子メールで歓迎するという返事をいただき、エティエンヌ君は驚かされたのを覚えていました。日本での身分が院生でしたので、「客員研究員」「自由聴講者」という立場ではなく、正式に大学の博士課程に登録しなければならない、ということになり、さまである書類をそろえ、それをフランス語に直したりするのが大変でした。メールを通して、エティエンヌ君には実に世話をなつたといふ次第です。

東大の博士課程を二年目の前期で休学し、一九九七年九月、羽田空港から台北、さらにバンコクで乗り換えて、しかも(パリではなく)アムステルダムに到着すると

いう、安さだけを選んで選んでしまった。アムステルダムからは列車に乗つてパリに着いたのですが、そこからまずは、当座のホテルとアパート探しが始まりました。パリでアパートを探すというのは、おそらく外人が東京でアパートを探すのと同じくらい難しく、フランスで給料を貰つている人に保証人になつてもらわなければ契約はできません。そういう保証人を見つけることのできない僕のような学生の場合には、割高を覚悟で日本人経営の不動産屋にあたるか、あるいは当地の日本語新聞に広告が出ている日本人大家さんの物件を個別に交渉するか、あるいは大学寮に入るか、ということがあります。僕の場合は、ちょうどエティエンヌ君がENSTを卒業し、学生寮を出て一人暮らしを始めるというタイミングに重なっています。僕の場合は、ちょっといついたこともあって、とまどう彼を説得し、彼とアパートをシェアすることに決めていました。フランスでは、アメリカほどではないせよ、若者同士のアパートシニアはそれなりに普通のことで、

## 西田憲司 公認会計士事務所

西田憲司(9期生)

〒604-8152 京都市中京区烏丸通錦小路上ル  
安田火災海上ビル  
TEL. 075-211-3620(代)

### Message

●  
病院を移転  
気持ちを新たに  
頑張っています。

医療法人社団  
**森小児科医院**

理事長 森 洋一(9期生)

〒617-0842 長岡市花山三丁目26番地  
TEL. 075-954-9511  
FAX. 075-953-5020